

郷土話方資料(1)

—今から七十年前 昭和七年十二月十日

佐伯尋常高等小学校

紹介者 山 本 保

(会員 佐伯市池船町)

したがつて、たくさんの家来をつれて、日向国に御降りになりました。それからは、日向国の地方は、大変よく治まつて、人民も安らかに暮らしていましたが、大和国にナガスネノヒコと云ふ悪い者がいて、人民を苦しめるので、尊の御孫の神武天皇は、御兄五瀬命と共に、多くの家来をつれて大和の國賊を平げんと、軍船を率いて、日向国を出発いたしました。

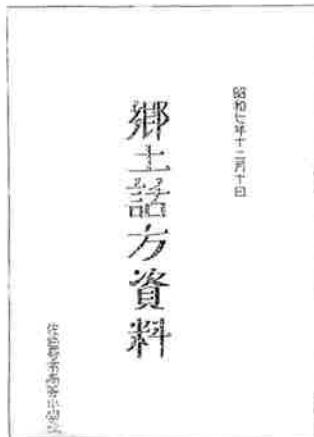
何分、大昔のこととて、所々におたちよりになり、舟の修繕をしたり、兵糧を積み込んだり、大変御難儀をしましたが、御難儀の内にも、一同元気よく、東の方をさして、御進みになりました。もちろん、此の佐伯の沖合いを、御通行になられましたのです。その時、南都の港にも、お立ち寄りになっています。

最初、御立ち寄りになつたところは、上入津村の畠野浦の港で、ここでは、しばらく御休養になつたとの事です。

今此の村に、伊勢本明神社といつて、神武天皇をお祭りしてあるお社がありますが、その御神体は、大変古い土器で、当時、天皇の御使用になつていた物だという事です。畠野浦を御出發になつた天皇は、隣村の米水津にも御立寄りになり、米や水をたくさん御積み込みになつたそ

(一) 神武天皇

天照皇大神の御孫ニニギノミコトは、大神のおほせに



うで、それが原となつて、其處の村を、米水津村と呼ぶ
ようになつたそうです。

次いで、鶴見岬を御通りになり、佐伯の沖にお出でに
なりましたが、此の佐伯の沖では、大入島に御碇泊にな
りました。今、日向泊とよばれているところが、そこな
のです。

潮のみちた時などは、全部、海になつてしまひます。
潮が引いてしまふと、奇麗な水がこんくと湧き出て、
少しも塩味もなく、實に立派な水だそうです。天皇は、
此の井戸から、軍船に御使用の水を御汲みになつたので
す。

こうして、天皇は、
だんくと東の方へ御
進みになつて、今の大
阪の土地に御上陸なさ
れ、直ちに、ナガスネ
ノヒコを御攻めになり
ましたが、御兄五瀬命
が、御怪我をなさいま
したので、戦をやめ、



神の井（日向泊）

大阪を出て和歌山の方へ御廻りになり、そこから御上陸
遊ばして、方々の賊共を打ちしたがへ、遂に大和の国に
攻め入り、ナガスネノヒコを打ちしたがへてしまひまし
た。金色のとびが来て、弓の御先にとまつたのは、此の
時の戦だつたのです。

それから、天皇は樞原の地で、第一代の天皇の御位に
御つきになりました。

紀元節といふのは、このめでたい日をお祭りする日な
のです。今、大和の国には、樞原宮と言う御社がありま
すが、天皇をお祭りしてあるのです。（つづく）

川名のルーツ

◆西山川

宇目郷の中心からみて西の方の山間に西山集落がある。
付近に城山があり、かつてとりでがあつて皿内（さらうち）
城と呼ばれたが、そこからみても西方。

◆中岳川

中岳という集落が川岸にあるが、付近にそうした名の
山はないので、岳は山ではなく、ダキ、つまり崖地、岸
壁と考えられる。（『日本全河川ルーツ大辞典』）